

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2772500720
法人名	特定非営利活動法人アポロレ介護事業団
事業所名	グループホーム アポロン池田
訪問調査日	平成21年10月23日
評価確定日	平成21年12月4日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2772500720
法人名	特定非営利法人アポロン介護事業団
事業所名	グループホーム アポロン池田
所在地	大阪府池田市木部町416 (電話) 072-753-3151

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポンアクティブ・ライフ・クラブ		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成21年10月23日	評価確定日	平成21年12月4日

## 【情報提供票より】(H21年10月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤	14 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 15.3 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	有(400,000円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 1ヶ月	
食材料費	朝食	250 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	65 円
	または1日当たり		1,315 円	

### (4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	17名	男性	3名	女性	14名
要介護1	2名	要介護2	8名		
要介護3	3名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.7歳	最低	74歳	最高	100歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	くさかベククリニック キッタカ歯科
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム アポロンは池田市五月山近くにあり、豊かな田園地の一角にある。この事業所は開設後6年を経過しているが、設立よりの介護の理念を明確にしている。家庭的な環境の下で心身の特性をふまえ、利用者1人1人の意志及び人格を尊重し、利用者の立場にたち自立を助け自分らしく生き生きと生活出来る支援を行っている。又、近隣との連携も重視し散歩時や外出時は声をかけあい親しみをもってかかわりを行っている。又、日中の活動を重視し身体的な機能の向上につなげ、自立に向けての働きかけを行っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では特に改善課題としてはあがっていないが、自己評価を実施するに当たっては全職員で取り組み、又検討課題については運営推進委員や職員会議等で検討しており、指摘された事に対しては改善し介護の向上に向けて努力している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は職員全体で取り組み管理者が纏めたが、評価の意義等については常に自分の立ち位置を確認するGPS(全地球測位システム)のような役割と理解し、取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回の割合で会議を開催し、施設の理念や方針、又利用者や家族の意見等も施設に反映される様な取り組み状況の報告を行っている。又、終末期ケアの問題点、認知症医療や看取りの問題等広く検討しサービスの質の向上につなげている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	介護計画は3ヶ月に1回見直しを行い、家族には希望書を送付し家族の意見を求めると共にホームの意見箱を設けている。苦情等についても運営面にも生かせる様に努力している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所が孤立することなく、利用者が散歩や買い物での外出時には近隣の方から声をかけられたり、野菜を頂くことがある。自治会を通して行事やイベントには積極的に参加している。又地域の子育て支援センターに協力し、連携を深めている。お祭りのだんじりや、おはやしが特別にホームに慰問に来られ交流を深めている。

## 2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です )

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症高齢者に対して真心を込めてケアを行い、尊厳を確保しながら自立出来る事を主眼としている。又、家庭的な雰囲気の中で精神的肉体的負担を軽減する様なかわりをしていく。又、家族の方々や地域の方ボランティアとの交流を密にしている。又、事業所の理念を持ってやりがいや生きがいにつながる努力を行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	情報共有システムを構築しており、スタッフ会議では事業所の理念や方針を確認している。又、新人スタッフにはガイダンスを作成しそれを活用し研修等を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者が散歩や買い物での外出の際には近隣の方からも声をかけあっている。又、近くの神社祭りでは事業所の広場にて特別おはやしが慰問に立ち寄られる。又、カラオケ大会の会場になるなど地域に溶け込んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価は自分の立ち位置を認識するGPS(全地球測位システム)のような役割を理解し評価の結果を生かし改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催、これまで19回開催し理念や方針、利用者の状態、外部評価の結果、全国グループホーム大会の報告、介護労働力の不足の動向、終末期ケアの問題点、認知症ケアの問題点、新政策等話し合いサービスの向上につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センター職員が出席しており、市町村担当者よりその時々意見を頂き、市町村の担当者には議事録を提出する等連携を密にし機会ある毎にアドバイスや指導を頂いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしや健康状態については、個別に3ヶ月に1度定期的に介護計画を送付している。又、事ある毎に随時電話で連絡をとっている。年4回アポロン通信を発送しホーム内の状況を提供をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には2組の家族に出席してもらい意見苦情等を直接聴ける機会を設けている。年4回介護計画書とともに希望書を送り、家族の要望を取り上げること、又意見箱を作り投書の機会を設け、運営に反映する仕組みを作っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開業当初の職員は1、2ユニットの共通化していたが、利用者に安心感を与えるために3年前から固定し出来るだけ長く担当する工夫をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者・管理者の目指す関わりを深めるために、入社時は新人スタッフガイダンスを教材に研修を行い、1ヶ月間は見習い研修、3ヶ月目の本採用テスト、1年目の更新時研修を実施し、主任・リーダーや職員は機会ある毎に社内外研修の参加を勤めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	池田市において定期的に同業者交流会を行っている他にグループホーム8事業所の管理者が2ヶ月に1回連絡会、意見交換会、勉強会を行い、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談や面接の際に出来る限り見学の時間を長く取ってもらい馴染んでいける様に心がけている。又、入所当初はホーム長が勤務に入り介護の方法等を指導し夜勤には主任やリーダーと共に勤務に当り徐々に馴れる様に工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	当ホームの理念である利用者の主体性を重視し、利用者と共に生活すること、又、利用者よりヒントを貰いながら自立への方向づけを行うこと、「利用者と共に生きる」「一緒に行動すること」をモットーに取り組み、利用者の機能を高め自信を持って回復することに希望を持ち明るい気持ちで生活出来る様に支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族から暮らし方の希望や思いを聞き、その人らしい生き方をするために元気で自立出来ることが大切であり、全力で支援を行っている。利用者の50%の方に自立への変化がみられ効果的な介護を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の個々の介護計画は家族の希望やスタッフの意見は勿論、作成者は直接現場に入り本人の様子を把握し介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は三ヶ月毎に見直しが行われている。又状態の急変があればその都度関係者と話し合い現状に即した計画にするよう見直ししている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症対応型通所介護の指定を受けており、現在3名のデイサービスを行っている。又昨年度よりショートステイの指定も受け、デイサービス利用者がショートステイも利用されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族の同意を得て「くさかべクリニック」の医師をかかりつけ医としている。毎木曜日に往診があり健康管理している。体調急変時にも臨時往診をしてもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合に於ける対応に係る指針」が定められており重度化・急性期・終末期・各段階で家族・医師・施設サイド間で十分・何回も打ち合わせをし家族の同意を得ているが、職員全員のレベルアップが望まれる。	○	左記の状況ですが最近終末に近い人が増えており特に夜間は1フロア1人体制のためスタッフの心理的負担が大きい。その為ホーム長をはじめ全責任体制をとっているが、その対応に関して職員全員の高度な情報の研修体制が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者にとってプライドを傷つけることのないように十分注意する様心がけている。又個人情報の取扱規則も設け注力している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	このホームでは「業務」という言葉を使用せず利用者の暮らしを最優先させ利用者に合ったペースを第一と考え支援に全力投球している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・後片付け等は、利用者にとっては機能改善の機会と楽しみの場ととらえ全員にて対応している。また出来ない所は職員がそれとなく補いながら一緒に食べることで時間と暮らしを共有している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂は毎日利用出来、風呂好きな方には出来る限り入浴を楽しんでもらっており嫌いな方にも週2回の入浴をスタッフと共に支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が日々生きがいや喜びのある時間を過ごせるように掃除当番を決めたり憩いの時間にピアノ・ハーモニカ等の演奏を依頼するなどし喜びのある生活を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周りは自然環境に恵まれており毎日散歩の時間を設け近くの神社・スーパー等に出かけている。又庭には自由に出入れガーデニング等を楽しんでいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前鍵をかけない体制をとっていたが、こっそり抜け出して大騒ぎになった人がいたために、利用者の生命第一と考え家族の同意を得て鍵をかける体制をとっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年2回実施している。そのうち1回は消防署指導のもとに、もう1回は施設独自に深夜・早朝・日中と様々なケースを想定し行われている。又日頃近隣の方々の協力が得られるよう関係を築いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスやカロリーを考慮して1ヶ月分の献立表を前月に作成している。利用者個々には状況に応じて食事の形状や分量を考慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下・居間・食堂の床は木目調、又畳コーナーを設け落ち着いた明るい雰囲気となっている。又2階は吹き抜けになっており、スクリーン式カーテンで日に3度光りを切り替えている。壁には行事の写真・花などを飾り、季節感を醸しだしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた家具・仏壇・家族の写真などが持ち込まれ従来の暮らしに近い生活が確保されている。		